

れば、途に在りて遅滞し便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

長史一員 蔡璟

使者三員 吳司馬 益周間 宋璧

通事一員 梁応

人伴二十一名

国王世子附搭の蘇木六千斤・番錫五百斤・胡椒一千斤

成化六年（一四七〇）九月初七日

右の符文は長史蔡璟・通事梁応等に付し、此れに准ぜしむ

謝恩等の事 符文

注*この入貢については『明実録』成化七年三月甲申、三月戊戌の条に記事がある。

1-23-05

国王尚円の、謝恩のため正議大夫程鵬等を遣わす符文

（一四七二、九、二八）

琉球国中山王尚円、見けんに謝恩等の為にす。

今、特に正議大夫程鵬等を遣わし、表文一通を齎捧し、及び徳字号海船一隻に坐駕し、馬一十五匹等の物を装載し、京に赴き謝

恩し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の諭遣を承くれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 程鵬

使者三員 明泰 勿志滿 馬嘉比

通事一員 蔡璋

人伴二十一名

国王附搭の蘇木八千斤・番錫一千斤・胡椒一千斤

成化八年（一四七二）九月二十八日

右の符文は正議大夫程鵬・通事蔡璋等に付し、此れに准ぜ

しむ

符文

注*（一七一八）によれば同じ日付で王舅武実・長史李榮・使者明泰等を寿字等号海船二隻で派遣したとの記事があるが、正議大夫程鵬の名は見えない。

1-23-06

国王尚円の、進貢のため長史蔡璟等を遣わす符文

（一四七三、九、三）

琉球国中山王尚円、見けんに進貢の事の為にす。

今、特に長史蔡璟を遣わし、使者沈満志・差同の使者安遠路等と共に、共に表文一通を齎捧せしむ。及び義字号海船一隻に坐駕して馬一十五匹・硫黄二万斤を装載し、京に赴き進貢し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の諭遣を承くれれば、途に在りて遲滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

長史一員 蔡璟

使者三員 沈満志 南闈度 阿普実

通事一員 魏鑑

人伴二十一名

国王附搭の蘇木一万斤・胡椒一千斤

成化九年（一四七三）九月初三日

右の符文は長史蔡璟及び通事魏鑑等に付し、此れに准ぜしむ

進貢等の事 符文

注*この入貢については『明実録』成化十年四月丙辰の条に関連の記事がある。

1-23-07

国王尚円の、謝恩のため正議大夫程鵬等を遣わす符文

（一四七四、九、三）

琉球国中山王尚円、見びに謝恩等の事の為にす。

今、特に正議大夫程鵬を遣わし、同差の長史李榮及び使者晏刺佳・安遠路等と、表文一通を齎捧せしむ。及び恭字号海船一隻に坐駕し、馬一十五匹・硫黄二万斤・鍍金銅結束螺鈿鞍鞍刀四把・鍍金銅結束螺鈿鞍鞍刀四把・鍍金銅結束螺鈿鞍鞍刀四把・胡椒一千斤・象牙二百斤、一十六条・束香五百斤・丁香二百斤を装載し、京に赴き謝恩し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の諭遣を承くれれば、途に在りて遲滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 程鵬

使者三員 晏刺佳 万濃 吉周丹

都通事一員 蔡齊

人伴二十一名

国王附搭の蘇木一万斤・胡椒一千斤

成化十年（一四七四）九月初三日

右の符文は正議大夫程鵬及び都通事蔡齊等に付し、此れに准ぜしむ

謝恩等の事 符文